

新たな国立公文書館 及び憲政記念館に係る 基本設計の進捗状況

平成31年4月

内閣府大臣官房公文書管理課

基本設計の進捗状況

【これまでの経緯】

平成30年

- | | |
|-------|------------------------------------|
| 4月10日 | 衆議院議運小委員会へ「新たな国立公文書館建設に関する基本計画」を報告 |
| 4月12日 | 参議院議運理事会へ同計画を報告 |
| 5月15日 | 公募型プロポーザル方式による設計業務の手続開始の公示（国土交通省） |
| 9月10日 | 設計者（株式会社日建設計）と契約（国土交通省） |
| 10月以降 | 基本設計に着手 |

【現時点の基本設計の進捗状況】

- ・ 憲政記念館を所管する衆議院事務局その他関係各所と調整し、基本計画を踏まえた外観や階層計画等に係る「基本設計の基本的な方向性（案）」＜次頁以降のとおり＞を検討中
- ・ 今後、上記の方向性（案）を了承いただいた後、具体的な平面計画、断面計画、立面計画等基本設計を本年10月を目途にまとめる予定

基本設計の基本的な方向性（案）

1. 独自性

【基本計画】

外観については両館の独自性が充分表現されるよう配慮する。

両館の間に中庭を設けた独立した形状とするとともに、外壁については、国立公文書館は石、憲政記念館はガラスを基調として、両館の独自性を表現する。なお、両館ともに内装に木材を取り入れる。



両館西側外観

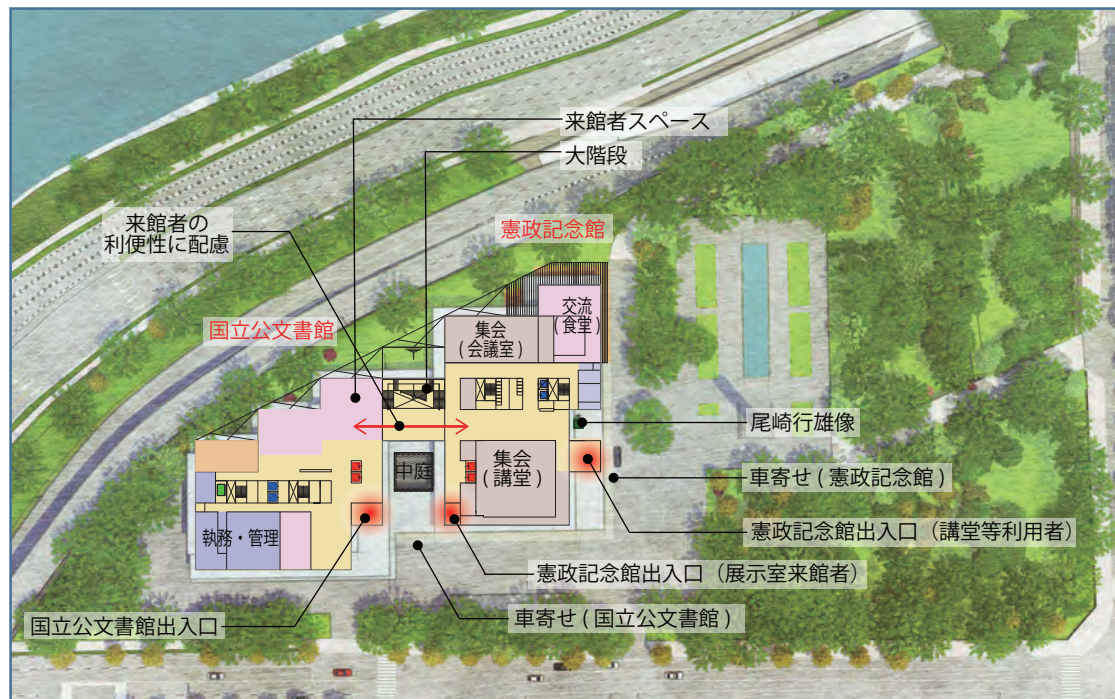
※現時点のイメージであり、今後の詳細検討により決定するものである。

2. 合理性及び利便性

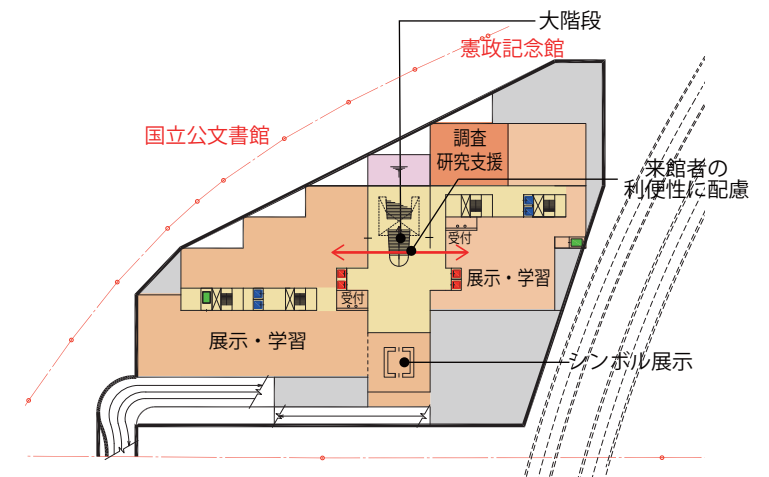
【基本計画】

全体として合理的な施設とするとともに、来館者の利便性向上を図る工夫を行う。

食堂、来館者スペース等を共用として合理的な施設とするとともに、共用部分は両館から利用しやすく配置する。



配置・1階平面計画図



地下1階平面計画図

※現時点の計画であり、今後の詳細検討により決定するものである。

3. 国立公文書館（1）

【基本計画】

我が国の歴史と伝統を踏まえた品格ある外観とする。

国会議事堂からの展望を考慮し、3階建て以下とするとともに、皇居側の高さを抑え、皇居側の景観にも配慮する。石を基調とし、国会議事堂と調和した品格のある外観とする。



国立公文書館外観

※現時点のイメージであり、今後の詳細検討により決定するものである。

3. 国立公文書館（2）

【基本計画】

公文書の重要性を象徴するような空間づくりを行う。

光溢れる大階段の正面に、我が国の歩みをたどる上での象徴的な文書
(日本国憲法、大日本帝国憲法、終戦の詔書等)を展示する。

大階段空間に沿って、国のかたちや国家の記憶を伝えるための機能を配置するとともに、文書のみならず、先端技術を活用したデジタル展示等を実現できるよう、フレキシブルな空間とする。



地下1階 大階段を降りて正面のシンボル展示を望む



デジタル展示のイメージ

※現時点のイメージであり、今後の詳細検討により決定するものである。

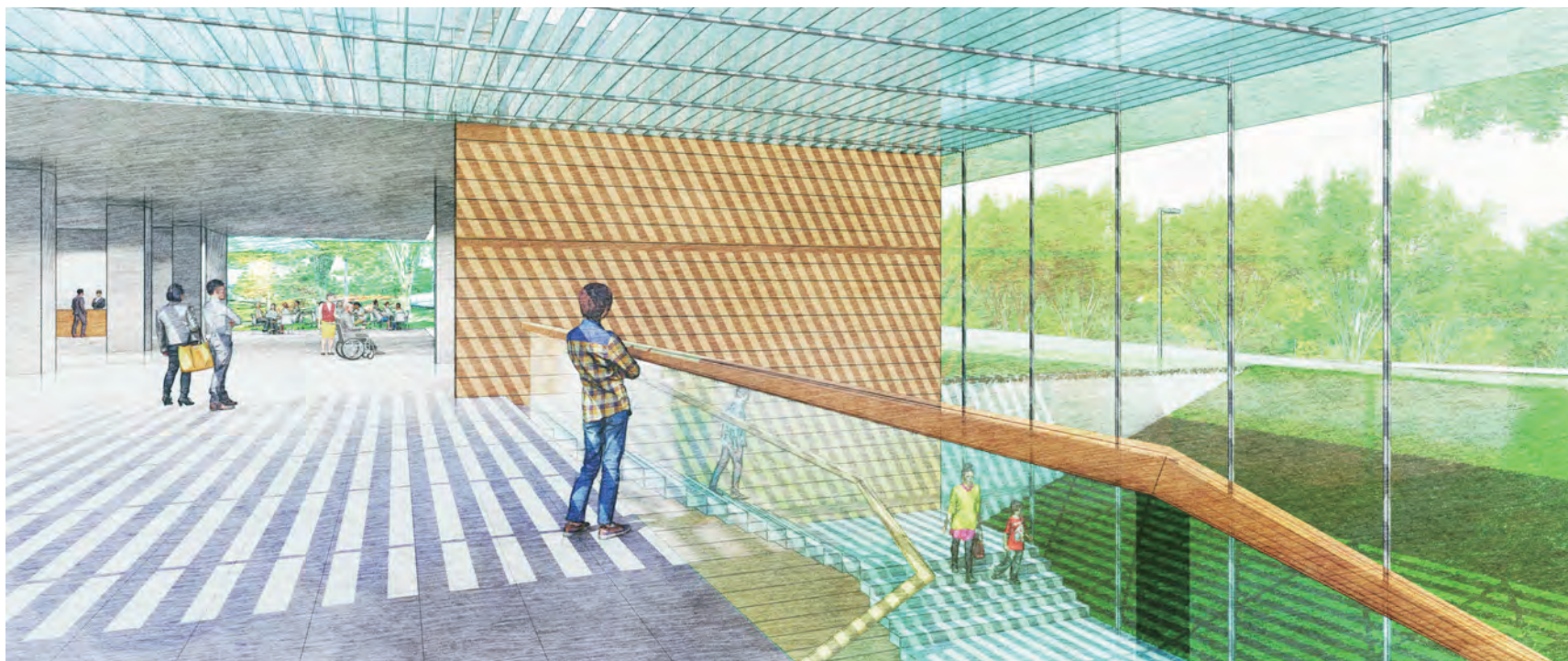
3. 国立公文書館（3）

【基本計画】

様々な世代の人々に利用される拠点としての利便性に配慮する。

皇居の緑を望める開放的で居心地の良い空間づくりを行う。

すべての施設利用者が、できる限り、円滑かつ快適に利用できるよう、ユニバーサルデザインを導入するとともに、授乳室等を設置する。



大階段上部から皇居の緑を望む

※現時点のイメージであり、今後の詳細検討により決定するものである。

4. 憲政記念館（1）

【基本計画】

現在の建物が有する歴史的価値を尊重し、そのビルディングエレメントや単位空間の活用や再築を検討する。

現在の建物の特徴である鉄・ガラス等の近代建築材料を基調とする歴史的価値を尊重した外観とするとともに、大理石の内装等を再利用する。主出入口に、尾崎行雄像を三方向から望む記念的空间を設ける。



憲政記念館外観

※現時点のイメージであり、今後の詳細検討により決定するものである。

※施設を所管する衆議院事務局と、上記「基本設計の基本的な方向性（案）」を調整。

4. 憲政記念館（2）

【基本計画】

現在の建物が有する来館者の利便性を維持する。

現在の建物での配置を参考に、講堂等を機能的に配置するとともに、
エントランスは展示室来館者と講堂・会議室利用者を区分して設ける。

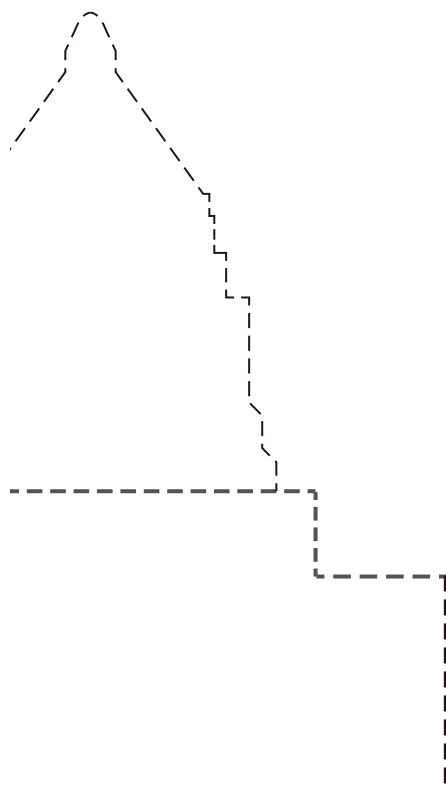
地上に車寄せや駐車場を設けるとともに、歩車分離に配慮する。



講堂・会議室利用者用エントランスホール

※現時点のイメージであり、今後の詳細検討により決定するものである。
※施設を所管する衆議院事務局と、上記「基本設計の基本的な方向性（案）」を調整。

(参考) 建物概要及び階層構成 (案)

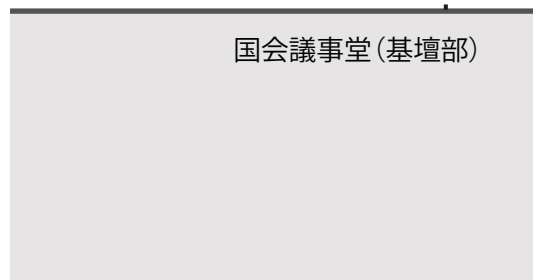


建物概要

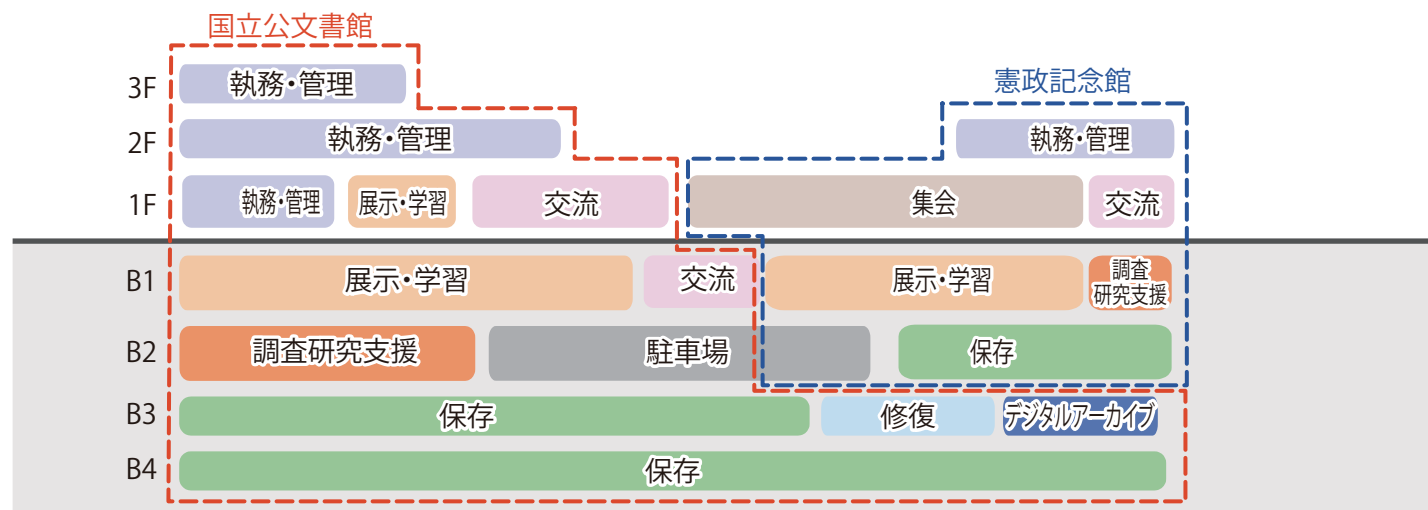
場所：国会前庭（憲政記念館敷地）

建物：地上 3 階地下 4 階程度

総建物面積：約 42,000 m²



国会議事堂(基壇部)



階層構成

※現時点の計画であり、今後の詳細検討により決定するものである。